



八戸市館鼻漁港付近の夜景

会報 防災だより

2015
VOL.15
9月30日発行

CONTENTS

1. ご挨拶	会長 大黒裕明	2P
2. ご挨拶	消防長 細越敬一郎	2P
3. 平成27年度加入新規事業所紹介		2P
4. 平成27年度定時総会開催		3P
5. 平成27年度事業計画		3P
6. 平成27年度役員紹介		3P
7. 第7回防災意見発表会		4P
8. 防火管理に関する資格取得講習会開催(後援)		5P
9. 第38回少年消防クラブリーダー研修会開催(後援)		5P
10. 五戸まつりで加入促進活動を実施		5P
11. 三戸消防署管内視察研修		6P
12. おいらせ消防署管内視察研修		6P
13. 平成27年上半年広域圏内の火災概況		7P
14. 予防課職員紹介		7P
15. 趣味をもとう		8P
16. 会員事業所紹介コーナー		8P

題字揮毫 大黒会長



ご挨拶

八戸地域防災協会
会長 大黒裕明

防災だより第15号をお届けします。

この夏は、三社大祭の頃を中心に八戸地域でも35度を超す猛暑日が幾日かありましたが、会員の皆様には体調を崩された方はいらっしゃいませんでしょうか。幸いなことにその暑さもお盆を境にめっきり和らぎ最近では明け方に冷え込みを感じるほどになり、まずは一段落ですが、西の方では残暑が続く、そればかりか竜巻などが起こっているようで驚かされます。やはり異常気象でしょうか。最近はこの話をすると何でも「地球温暖化のせい」と一言で片づけられてしましますが、でも地球が温暖になるとなぜ八戸までが猛暑に襲われるのか、なぜ竜巻が起こるのか、あるいはここ数年の例のように台風が南シナ海や日本海を通り抜けて中国まで行くのか、私にはどうも理解ができません。さらに最近では地震や火山の活動も激しく注意報や警報がいつ出るのかと不安が募ります。そもそも地震や火山がどのように観測されているのかということすらよく知らないというのが正直なところですが、私の不勉強のせいもあるでしょうが、それ以上に研究の進歩が速いのかも知れません。そこで当会ではそのような情報収集の最前線と考えられる気象台を視察するという企画を今回立てました。訪問した

からと言って、あるいはそこで詳しく教えられたからと言ってこれまでの疑問が氷解するかどうかは分かりませんが、何がしかの知識は得られるのではないかと期待しています。少なくとも、何もしないで分からないと悩んでいるよりは良い……のは、どうですか、皆様も、一緒に参加しませんか。

ところで、つい先日、中国天津で工場が爆発し多くの死傷者が出たというニュースがいきなり飛び込んできました。現場はまだ危険な状態でした。報道関係者も規制されているのか詳しい状況が伝わっては来ませんが、大事でないのを祈るとともに、我々も、経済性などを優先させ安全管理をおろそかにすると大きな災害に繋がる危険性が高まるのだと、今一度心を戒めなければなりません。我が国が「エコノミックアニマル」と揶揄されたり、「公害」に住民が苦しんだりしたのはついこの間のことで、今でもその後遺症が残されているのですから決して忘れてはいけません。他人事でもないので、ちょっとと良くなると思わせた昔のことをすぐに忘れるのが人の常、忘れるの時には大切ですが、初心を大切にすることが防災には欠かせない事なのではないでしょうか。皆様のご無事をお祈りします。

(8月21日寄稿)



ご挨拶

八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部
消防長 細越 敬一郎

会員の皆様には、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

さて私ごと、平成27年4月1日付けをもちまして消防長を拝命いたしました。

職責の重大さを思い、身の縮む思いであります。課せられた任務は、瞬時の停滞も許されないものと、決意を新たにしているところであります。

就任から6か月、当広域管内では大規模な災害も無く経過しているところであり、これからも我々消防の究極の目標である『住民生活の安全確保』のため、職員一同その使命達成に全力を尽くして参る所存であります。

さて昨年を振り返りますと、広島における大規模な土砂災害、火山災害としては戦後最悪の惨事となった長野・岐阜における御嶽山噴火のほか、全国各地において、地震・集中豪雨・台風・竜巻の発生等、自然災害が猛威を振るい、地域住民は大きな不安を感じることとなりました。

また、当広域管内では東日本大震災から4年が経過しましたが、その

後も震度4程度の地震が断続的に発生しており、大地震に対する住民の不安は消えることはありません。

このような状況の中、「安全・安心」に対する住民の関心は、一段と高まりを見せております。

そこで、多発する大規模災害等に対応する為には、消防力の強化の力を進めるのではなく、同時に地域の防災力を総合的に強化することが肝要であります。

貴協会は、創立当初から今日に至るまで組織を挙げて様々な防災活動を練り広げ、地域の「安全・安心」に多大な功績を残して参りました。これまで当消防本部は、皆様と共に数々の事業を展開して参りました。近年の大規模災害に対応するためには、さらに連携を深め、地域ぐるみの強固な防災体制を目指すことが大事だと考えております。

結びに、会員皆様には、八戸広域消防にますますの御支援と御協力をいただきますようお願い申し上げます。私のかえささせていただきます。

平成27年度加入 新規事業所紹介

- 2部会
 - ・八戸ポータルミュージアム
 - ・佐々木塗料株式会社
 - ・サンクス八戸高館店
 - ・株式会社ライケット
 - ・ローソン八戸沼館一丁目店
 - ・auショップ八戸湊高台
 - ・株式会社金正堂本店
 - 3部会
 - ・医療法人スマイルクリエイト
 - ・根城よしだ歯科
 - ・社会福祉法人ぶさん会柿の木苑
 - ・社会福祉法人サポートセンター虹
 - ・住宅型有料老人ホーム
 - ・ちようじや様の宿
 - ・特定非営利活動法人陽だまりの彩苑
 - ・住宅型有料老人ホームほおずき
 - 5部会
 - ・ネットヨタ青森株式会社根城店
 - ・北日本計装株式会社
 - 6部会
 - ・エイト技術株式会社
 - 五戸部会
 - ・有料老人ホームつくし
 - ・有限会社栄晃
 - おいらせ部会
 - ・日本フードパッカー株式会社
 - ・青森工場
 - 自衛消防専門部会
 - ・石油防災株式会社
 - ・八戸防災事業所
- 平成27年8月1日現在
総会員数934事業所



去る5月20日(水)、八戸プラザホテル2階「プラザホール」において、会員102名出席のもと、「平成27年度 八戸地域防災協会総会」が開催されました。

総会に先立ち、音楽講師の坂本利枝子様から「八戸地域防災協会の歌」を御披露いただきました。

総会では、大黒会長が議長を務め、事務局から「平成26年度事業結果報告及び収支決算報告」、「平成27年度事業計画(案)及び収支



予算(案)」を説明し承認・議決されました。

次に、山岸武男副会長・豊川雅昭理事・木村治監事、3名の役員辞任に伴い欠員補充として、新役員に金正夫副会長・下館幸作理事・田端民夫理事・平内裕監事の4名が承認されました。

新役員紹介の後、辞任された、山岸武男副会長と木村治監事の2



名に、これまでの協会の発展に御尽力された御功労を称え、協会から、感謝状と記念品が贈呈されました。

また、総会後には同会場において、多くの来賓を招待しての懇談会が行われ、盛会裏に終了いたしました。



平成27年度 事業計画

- 1 災害時要援護者支援事業
 - (1) 住宅用火災警報器寄贈設置
 - (2) 電気・水道、燃焼器具設備等の点検修理
- 2 防火防災思想普及事業
 - (1) 火災予防運動用ポスター作製及び配布
 - (2) 各種防火チラシ作成及び配布
- 3 研修
 - (1) 消防用設備等の研修
 - (2) 各種施設等の見学
 - (3) 講演会の開催
 - (4) 消火訓練の実施及び各種訓練への参加
 - (5) 救命講習の実施
 - (6) 防災士の養成及びフォローアップ研修
- 4 機関紙の発行
- 5 消防関係資格取得講習会等の後援及び情報提供
 - (1) 防火管理者新規講習会の後援及び実施の周知
 - (2) 甲種防火管理再講習会の後援
 - (3) 消防設備士試験、事前講習会等の情報提供
- 6 幼年・少年・女性消防クラブの育成援助
- 7 加入促進事業の推進

平成27年度 役員紹介

会長	大黒裕明	理事	金正夫(新任)
副会長	福澤光雄		奥山マサ子
	工藤美登		新井隆治
	田名部喜栄		佐々木隆光
	梶沢幸苗		加藤芳代
	小野十三宏		長谷地洋一
	豊山周二		李澤隆聖
	齊藤幸浩		田頭正嗣
	北向		柳谷利通
	金正夫(新任)		平野千晴
			島浦喜代芽
			中野欣一朗
			太田広幸
			石井清隆
			高橋則男
			山子洋一郎
			小川智之
			佐々木敏廣
			中里政治
			佐々木敏治
			下館幸夫(新任)
			田端民夫(新任)
			馬渡淳維
			佐藤準
			平内裕(新任)
			野澤俊雄
			鳥谷富子

※ ◎は、新任役員です。



「消防クラブの活動について」

八戸工業大学第一高等学校

大館 拳斗さん 加賀 丞さん

加賀さんと大館さんの二人は現在、八戸工業大学第一高等学校3年生で少年消防クラブ（高校）の一員として校内のみならず、地域の防災に対し精力的に取り組んでいます。発表は、二人一緒にステージに立ち、前半は消防クラブ活動の概要と今後の計画を加賀さんが発表しました。その後大館さんに交代し、震災時における日本人の絆とボランティア活動への意気込みを述べた内容でした。



第7回 防災意見発表会

定時総会に先立って、「第7回防災意見発表会」が八戸プラザホテル2階「桜の間」において開催されました。

会員89名が会場入りした中、会員事業所から2名、少年消防クラブ（高校）2名、消防職員1名、計5名の方が防災に関する発表を行いました。

少年消防クラブ（高校）の活動、防災士としての役割、八戸地域防災協会視察研修に参加しての感想、窒息死の予防対策法など、発表者の体験、感想等様々な提言に、出席した多くの会員から大変参考になったとの声が上がりました。

終了後、細越消防長からは、「本日、ここにお集まりの皆様が、今後、職場はもとより地域、そして家族に防災意識を広げていただくことをご期待申し上げます。」と講評をいただきました。

「防災士養成講座を受講して」



八戸液化ガス株式会社 林 卓也さん

林さんは、平成26年に八戸地域防災協会主催で開催した「防災士養成講座」を受講し、災害は、いつ起こるか分からないもので、日頃から災害を想定した準備しておくことが大事だと感じたそうです。また、各種災害に応じた訓練の重要性を認識し、これまで以上に気を引き締めて会社での訓練を実施していきたいとの力強い発表でした。



「視察研修に参加して」



学校法人臨研学舎 東北メディカル学院 石井 啓利さん

石井さんは、平成26年10月2日、3日の二日間、八戸地域防災協会主催の視察研修に参加し、宮城県内の被災地や震災後の取組みについての感想を述べています。

その中で、ボランティアで案内人を務めた方の「天災は非常に痛ましいことではあるけれども、残された人々が、その後、どうするか何より大切です。」という言葉が、強く心に残ったそうです。そして、災害に限らず、課題解決に必要なものは、独りよがりではない従事する者全員の一体感がなければ上手くいかないとの発表でした。

「命を救う料理教室」



三戸消防署 福地分遣所 消防士 関川 貴秋さん

消防職員の関川さんは、平成27年2月20日、青森市で開催された、消防職員意見発表会の青森県大会に八戸消防本部の代表として出場されました。

その内容は、厚生労働省が発表した死亡原因の1位が平成20年から窒息であることを伝え、食事中に食べ物や喉に詰まらせ死亡した救急事案を体験したことから始まりました。その後、家族や知人を含めたほとんどの人が、対処法を知らなかったことに驚き、どうしたら窒息死がなくなるかを考え、料理教室と救急教室の一本化を提案した発表でした。



防火管理に関する資格取得講習会開催 (後援)



平成27年度の防火管理に関する資格取得講習会が、消防本部5階の研修室において、6月16日・17

日と7月7日・8日の各二日間、計2回、開催されました。

消防法により、一定規模以上の防火対象物は、防火管理の資格を有する者を防火管理者として定めることとなっており、本講習会はその資格を取得するためのもので、八戸地域広域市町村圏事務組合消防本部が主催、当協会が後援とし、毎年開催されているものです。

甲種のみ実施した今回の講習会では、計373名の方が防火管理の資格を取得されました。新たに資格

を取得された方々には、これからも防火管理体制の充実、強化に御尽力されますようお願いいたします。



第38回 少年消防クラブリーダー研修会開催 (後援)



キャップをかぶり消火訓練

今年で38回を数えるこの研修会は昭和53年から始まり、今回を含め2,461名のリーダーを輩出しています。

防災意識を育む目的で実施しているこの研修は、各々がリーダーとしての協調性や指導力を身につけるため、火災予防に関する防災講話を始め、災害時の状況判断・価値観を共有することを目的としたクロスロードゲーム、各班ごと

今年も「種差少年自然の家」において、7月22日(水)から2泊3日の日程で実施した当該研修会は、各少年消防クラブから64名のクラブ員が参加しました。



会長あいさつ

に火災・救急事案等を考え、その対応を寸劇とし披露するスタンツを実施しました。当協会は、この目的に賛同し後援しており、大黒会長から励まし



会長からキャップ贈呈

五戸まつりで加入促進活動を実施

今年も9月の初めに五戸まつりが盛大に開催されました。

御存じの方もおられるかもしれませんが、五戸町消防団員と五戸消防署員で協力し「防火虎舞」という形で例年参加させてもらっております。

形としては、虎舞の後ろに火消し纏絵、さらにこの後ろにミニ扇ねぶた山車を運行して防災・防火をPRするもので、最後尾のミニ



扇ねぶた山車には八戸地域防災協会のネームが入っております。

今年も八戸地域防災協会への加入促進も考え、「のぼり旗」を作製してみました。作成した本人が言うのも何ですが、見た目はなかなか上出来だと思えます。

そして、本番のお祭りの最終日は、多少肌寒い日でしたが沿道の観客からは、大きなご声援をいただき、大いに盛り上がりました。今後も、八戸地域防災協会五戸ブロックでは、防災・防火の啓発、さらに八戸地域防災協会への加入もPRして参りたいと思えます。



記念集合写真

の言葉とともに、記念品として少年消防クラブのシンボルマーク入りアポロキャップを贈呈しました。

三戸消防署管内 視察研修



消防隊司令室見学の状況

毎年恒例と定着しつつある三戸消防署管内(代表・太田欣一朗理事)の視察研修会が6月30日(火)に開催されました。

今回は三沢市が舞台。三戸地区の会員24名、三戸消防署管内職員9名の総勢33名が参加し、バスで三戸消防署を出発。車内では、防火管理に関する研修を行い、三沢米軍基地へ向かいました。

三沢米軍基地に到着すると、基地消防隊の川嶋さんにお出迎えしていただき、基地内の案内と説明を丁寧にして頂きました。(川嶋さんは英語がペラペラです。)

基地内の消防署に到着すると、各ブースに日本の隊員の方が付き指令室、仮眠室、食堂や休憩室を見学させて頂きました。広さや設備がアメリカサイズで驚きました。

また、消防車両に体験搭乗、呼吸器などの試着、若手職員による着装(米国の新人隊員だそうです。)や出動態勢の見学をさせて頂きました。

時間があつという間に過ぎ、名残惜しいまま集合写真を撮って帰ろうとした時、消防隊の最高責任者、消防隊長さんがお目見えになり、写真撮影に参加、さらにご挨拶をしていただきました。

午前の研修を終え、三沢市内の飲食店で昼食をとり、親睦を深めました。

午後の部の研修は、道の駅みさわの中にある斗南藩記念観光村を散策し、三沢の歴史を堪能しました。(斗南藩記念観光村での写真撮影はNGでした。)

今回の研修では、三沢米軍基地内の消防隊という、なかなか立ち入ることができない場所の見学という点で、例年より参加者が多くなりました。また、防災に取り



空気呼吸器装着体験

組む者として「国境はない」ということを改めて感じることができ、とても有意義な視察研修でした。

記念撮影



資器材の説明を聞いている状況

消防車体験乗車

おいらせ消防署管内 視察研修

おいらせ消防署管内の視察研修会を8月21日(金)に開催しました。

今回は、おいらせ町の明神山公園に津波避難タワーが建設中とのことで、自然災害に対する管内事業所の防災体制等に重点を置き関連施設の視察研修会を実施致しました。

内容については、おいらせ消防署管内の会員22名、職員8名の総勢30名が参加し、バスでおいらせ署を出発、八戸市豊洲のポートアイランドにあるJXLNGターミナルへ向か

いました。

移動中の車内では、防災に関する各種研修をクイズ形式で行い、会員の皆さんに好評でした。

八戸LNGターミナルに到着すると、業務部業務課の日當さん、南さんのお二人に出迎えていただき、研修室でスライドを使用いただき、研修室の説明があり(東北地方最大級のLNG輸入・供給基地)その後、質疑に入り参加事業所の方々から津波対策、安全対策等に関する質問が積極的に出されました。

次に、バスで工場内の施設説明を丁寧にしていただきました。あつという間に予定時間が過ぎ、集合写真を撮る際には、説明してくれたお二人も快く写真撮影に参加していただきました。

午前の研修を終え、バスは海岸線を南下し三陸復興国立公園の指定を受けた種差海岸へと向かいました。

そこで昼食をとり、海岸を散策、親睦を深めました。



小中野公民館記念写真



八戸LNGターミナル記念写真

小中野 森館長概要説明



午後からは、八戸市立小中野公民館防災拠点施設を見学しました。予定時間に到着し森館長さんの出迎えを受け2階のふれあいホールで、施設の概要について説明を受けました。次に二班に分かれ建物の構造、機能等について丁寧な説明をいただきました。備蓄倉庫室の見学では、非常食の保管期間、何人分の備蓄を予定しているのか、各居室の使用方法等、ここでも積極的な、質問が出されました。予定時間となり公民館前にて、集合写真を撮り車中和気あいなの中、帰路につきました。

今回の研修会は、いろいろな災害対策の面から防火・防災に携わるうえで大変参考となり有意義な視察研修会でした。

平成27年 上半期広域圏内の火災概況

△印は減少

(1月1日～6月30日)

◇ 火災発生状況 ◇

平成27年上半期の火災の発生状況は、総出火件数が106件で、前年同期と比べ2件増加となっている。

火災種別は、建物火災38件（前年同期比6件減）、林野火災16件（前年同数）、車両火災4件（同3件減）、その他の火災47件（同10件増）、船舶火災1件（同1件増）となっている。

焼損棟数は、61棟（前年同期比4棟減）、り災世帯は37世帯（同6世帯増）、り災人員は82人（同11人増）、死者は4人（同3人増）で、負傷者は19人（同5人増）となっている。

損害額は1億4,924万2千円（前年同期比3,545万円減）となっている。

区 分	平成27年 (A)	平成26年 (B)	増 減 (A) - (B)	
総出火件数	106	104	2	
火災種別	建 物	38	44	△6
	林 野	16	16	
	車 両	4	7	△3
	船 舶	1		1
	航 空 機			
	そ の 他	47	37	10
焼損棟数(棟)	61	65	△4	
程 度	全 焼	21	18	3
	半 焼	6	2	4
	部 分 焼	7	28	△21
	ほ や	27	17	10
り 災 世 帯	37	31	6	
程 度	全 損	14	7	7
	半 損	3		3
	小 損	20	24	△4
り 災 人 員(人)	82	71	11	
死 者(人)	4	1	3	
負 傷 者(人)	19	14	5	
建物焼損面積(m ²)	2,811	5,070	△2,259	
建物焼損表面積(m ²)	176	503	△327	
林野焼損面積(a)	462	845	△383	
損害額(千円)	149,242	184,692	△35,450	
種 別	建 物	118,090	165,695	△47,605
	林 野	14,330	17,889	△3,559
	車 両	203	1,043	△840
	船 舶	16,329		16,329
	航 空 機			
	そ の 他	290	65	225

予防課職員紹介

今年度、当協会の事務局のある消防本部予防課の職員は、次のとおりです。

下 館 壽 (課長)

川守田和彦 (課長補佐)

三浦 忠則 (副参事兼設備指導班長)

村井 孝雄 (副参事兼保安調査班長)

◎石橋 博幸 (設備指導班主査)

田沢 孝之 (設備指導班主査)

佐々木隆行 (保安調査班主査)

佐々木拓哉 (設備指導班)

門前 祐児 (保安調査班)

四戸 一保 (予防査察担当)

大南 正彦 (予防査察担当)

松倉 敏昭 (予防査察担当)

澤頭 均 (予防査察担当)

◎齊藤 智美 (協会職員)

今後とも、よろしくお願ひします。

※ ◎は、事務局担当

趣味をもと

No.13

『宇宙の詰まった 小さな塊』

認定こども園百石幼稚園

副園長 松橋 恵美



趣味がたくさんあるといえれば聞こえがいいが、ただ落ち着きがなくあれこれとやってみては次に行くということでもある。やってみなければわからないとばかりに、目についたものを始めるものだから、広く浅く知識と、たくさん道具だけが残っていくのである。そんな中、趣味と違っていなくてもなんとなく好きなのかな？という気持ちで続けていること、やめようと思ってもやめられない、趣味というより、もうライフワークなので、と最近思い始めた趣味が「石」である。

最近では「鉱物女子」という呼び名もあるようで、石好きの女子の認知度が高まってきているようである。そんな名もない昔のこと。私が石集めをするようになったのは、確か小学生ぐらいのことであろう。確かな記憶はないが集めた石が今でも手元にある。ウン十年ものということになる。よほど好きでなければ、引越して、結婚し、また引越している間に、とつくに捨ててしまったようなどこにもある石。なぜ捨てずにとっていたのだろうか？

遠い記憶の中でいつも石を探していた自分が思い出されるので、きっと好きだったのだろう。鉱物の本を見るのも好きであった。少し知恵がついてくると宝石のページを見るのが好きになり、「どこかに落ちていないのかな？」と夢見る夢子であった。もう少しばかり知恵がつくと、宝石とはそうそう落ちていないものではないことも、宝石は取れる地域が限られていることもわかってきた。

それでも、細く長く石への愛情は途切れることはなかった。大人になると「パワーストーン」が欲しくなる。現実的なお願いも一緒にできるとあって、石好きには一石二鳥とくる。そのうち買うだけでは飽き足らず、ついに自分でアクセサリを作れるようにスクールにまで通うようになる。人から見ればやりすぎだと思ってしまうことも、ついついやめられずにやってしまうのが、趣味の力なのかも知れない。

スクールには当然、同様に石の好きな人が集まることになる。日常ではあまたに共感を得られるものでもなく、ひっそりと取り組んでいる趣味も、同志が集まると語っても語りつくせないほど話の花が咲く。私などは石に関してシロウトもいところで、上には上がいるもの、世の中広いなと世界観が変わったりもするのだ。

今では、好きが高じて自分で自分のアクセサリを作るのに飽き足らず、職員の誕生日にプレゼントしたり、友達に頼まれて作ったりするようになっていく。これも趣味ならではの、商売でないからとにかく楽しんでやれるのが良い。パワーストーンといえば、水晶が有名だ。万能の石などともいわれられていて、ほかの石のパワーを

高めてくれるともいわれている。パワーのほどは各自の判断にお任せするとして、鉱物には電圧をかけることと一定の周期で規則的に振動するものがある。中でも水晶は3276Hzという安定した振動がありこの振動を利用したものが「クォーツ時計」というものもある。天然の水晶は振動が微妙に変わることもあるように、精密機械には人工水晶を使うことも。八戸の地で、人工水晶が作られていることを知っている方も多いだろう。八戸ポータルミュージアムはつちにも、大きな人工水晶が展示されている。人工は偽物、と思っていた自分の無知を恥じつつ、はっちに行ったらせひタッチして水晶パワーをいただいでみてはどうかだろうか？人体にも超微弱電流ではあるが、電流が流れている。その電流に反応して振動が起こっているとしたら、パワーストーンが体や気持ちに何らかの影響を与えることも、ありえなくもない、と思ってしまう。

最近の私のブームは、久慈琥珀博物館での「琥珀発掘体験」である。実際に鉱脈のある場所で琥珀を掘ることが出来る。一度目は全くだったが、二度目はコツを得て少しばかり琥珀を集めることができた。厳密に言えば琥珀は樹脂であり石ではないが、太古のロマンを感じつつパワーストーンを自ら手に入れられるのも、石好きにとってはたまらない。

石好きが高じると、自分で掘りに行くというのがある話だそうだから、私もいよいよ趣味の深みへ足を踏み入れたのかも？いやいや、鉱物、石と検索エンジンに入れただけでも、膨大な本が検索される。私の知らない世界も多い。石の世界はまだまだ奥深い。

石の成り立ちとは地球の成り立ちにもつながる、宇宙の詰まった小さな塊を手に、今日も楽しむ趣味の世界である。

昔集めた石と採集した琥珀



会員事業所紹介コーナー⑬

石油防災株式会社八戸防災事業所は、昭和50年12月（法律第84号）に制定の石油コンビナート等災害防止法によって指定があり、特別区域における共同防災業務の運営管理を事業目的として、昭和53年10月に設立されました。

法に基づく3点セット（大型高所放水車・大型化学車・泡原液搬送車）を保有し、24時間勤務体制で万一の災害に備え、日夜訓練を重ねて関係会社各位の期待に応えるべく努めております。

防災資機材（消火器、消防ホース等）の販売もしておりますので、詳しくは事業所に問い合わせください。



防災センター



防災訓練

石油防災株式会社 八戸防災事業所

所在地：〒039-1161 八戸市大字河原木字宇兵衛河原10-5
TEL：0178(46)1727 FAX：0178(46)1738